

旭川市における農福連携の推進体制

～旭川市自立支援協議会就労部会農福連携チームによるマッチングに向けた取組～

◎取組の経緯（きっかけ）

農業従事者が減少・高齢化する中で、特に機械化が難しく人手を必要とする果樹において労働力不足が深刻であることから、平成26年度から28年度にかけて、旭川市果樹協会を事業主体とした「労働力確保対策モデル事業」を実施し、その一環として農福連携の取組を行った。

市では、29年度から「旭川市自立支援協議会就労部会」や農業関係者、福祉関係者と農福連携の協議を開始し、令和2年度からは、自立支援協議会内に「農福連携チーム」を設置して、農福連携を推進するための情報交換、普及啓発、マッチング等の取組を実施している。

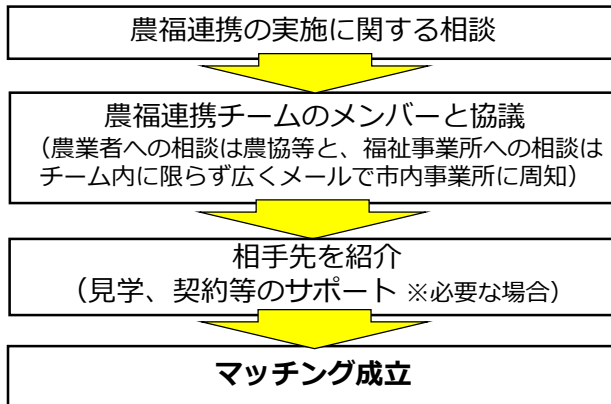
旭川市自立支援協議会就労部会農福連携チームの参加メンバー

- ・旭川市自立支援協議会（事務局 旭川市障害者総合相談支援センター あそーと）
- ・市内農業協同組合
- ・ホクレン旭川支所
- ・上川生産農業協同組合連合会
- ・（農福連携実践中又は意向のある）福祉事業所
- ・上川総合振興局産業振興部農務課
- ・旭川市農政部農政課、福祉保険部障害福祉課

◎取組内容

- ◆ **農業者と福祉事業所のマッチング**
市などが農福連携の実施に関する相談を受け、農福連携チームでマッチングを行っている。
- ◆ **農業者・福祉事業所向けの研修会、情報発信**
相互理解、事例紹介等のため、年1回研修会を実施している。また、旭川市HPに事例集を掲載。
- ◆ **マッチングシステム構築の検討**
農業者と福祉事業者が広く早く相手先を見つけられるようなシステムの構築を検討中。

農福連携チームによるマッチングに向けた取組



地域の概略



○位置

- 農業データ
経営形態
水稲、野菜、
そば等
- 福祉データ
A型福祉事業所
8か所
B型福祉事業所
64か所
※令和4年12月31日現在

◎成果と課題 □：成果、■：課題

- 農業団体と福祉事業所との連携が増えたため、農福連携チームを通さなくてもマッチングにつながるケースも増え、農福連携が地域に定着してきている。
- 現在、市内で農福連携に取り組んでいる農業者は13戸で、今後も農業側の広がりが期待される。
- 特に農業者の農福連携への関心を喚起するため、定期的な情報提供を行う。事例集については、取組の実例を具体的に知ることができるよう、動画の充実を図る。
- マッチングの機会を増やすため、農作業を希望する福祉事業所の情報を紹介するシートを作成し、農業者に提供する取組を予定している。



収穫したキュウリを利用者が作成した段ボール製定規に当てて、長さや曲がり具合を確認している様子